

# 放射性 指定廃棄物 最終処分場 加美町 ありきは 「白紙撤回」を



忙しなか詳しく述べる猪股洋文加美町長（11月3日、加美町）

11月3日、福島第1原発事故で発生した指定廃棄物最終処分場建設候補地となつてゐる加美町に、大型バス2台で訪問しました。JA加美よばの三浦静也組合長より歓迎のあいさつをいただき、その後加美町の猪股洋文町長より、最終処分場の候補地である田代岳が候補地としての条件を満たしていないことや市町村会議で定めた選定ルールが守られていないことなどが明らかなのに、詳細調査を強

められていなかなに、地域の衰退を招きかねない状況など、他人事ではなく、同じ県民として関心を持ち、広げていかなければならぬことは間違いないこと

ないと感じました。  
帰りには、薬葉山のふもとの薬師の湯で温泉を楽しんだり、新鮮な野菜を購入したり、美しい加美的自然を堪能しました。

## 加美町に連帯、支部主催の現地学習会

みやぎ生協支部  
書記長 池町江美子

国は2011年11月、閣議決定した放射性物質汚染対応特措法（特措法）にもとづき、福島原発事故で発生した放射能を含む廃棄物は排出された都道府県ごとに保管処分するとしました。宮城県は12年10月、村井知事が先導して市町村会議で建設場所を1カ所にすることを承認しました。宮城県内で一時保管されている指定廃棄物は約3300トンにも上り、国は処分場を建設し、長期にわたり維持、管理する計画です。

今年1月、国が候補地として提示したのは栗原市の深山嶽、大和町の下原、加美町の田代岳の3カ所。いずれも山間部の国有地で集落から2キロ以上離れています。国は候補地について、地形分布図などを基に地滑りや地震などの自然災害の懼れがある地域や、年間客数50万以上の観光地周辺などを除き17カ所を抽出。その上で集落や水源との距離、自然植生の少なさを検討し3カ所を選んだとしていますが、環境省は実態把握も不十分なまま雪が降る前にボーリング調査を強行しようとしたため、住民が猛反対しています。しかも国も宮城県も最終処分場は加美町に絞られたごくの扱いをしています。

加美町が経過を詳しくHPにアップしています。また猪股町長が「放射性指定廃棄物最終処分場候補地の白紙撤回を求める緊急住民集会」で経過と概要を報告している動画もあります。あわせてご覧ください。

<http://www.town.kami.miyagi.jp/index.cfm/6,3763.html>  
<http://www.youtube.com/watch?v=VtNwBVGzbVs>

環境省の詳細調査と地元住民の猛反対の様子は、テレビや新聞などマスコミでも大きく報道されているなか、本当の実態は何なのかを知るために、みやぎ生協支部は大型バス2台を貸切り、焦点になっている加美町の現地調査を行いました。

村井知事が処分場ゴリ押し  
住民はオール加美町で猛反対

宮城一般

2014年11月5日（第108号）

発行 全労連・全国一般  
宮城一般労働組合

〒983-0816 仙台市宮城野区小田原金剛院丁78-2  
金剛院丁SSビル4F

TEL (022) 293-3267

FAX (022) 297-0753

<http://www4.ocn.ne.jp/~rouso/>  
E-mail : zzmrouso@theia.ocn.ne.jp



(10月31日付『河北新報』より)





## 快晴のもと31回の 炊き出しなんでも相談会

300食の庄内風いも煮、  
納豆餅ときな粉餅ふるまう



10月25日、岩沼市会館前広場で、宮城県災対連や東日本大震災復旧・復興支援センターが呼びかけた、第31回炊き出しなんでも相談会が行われました。会場の周辺には3



つの仮設住宅380戸があり、いまでも30代半ばが暮らしています。この日集まったお米は、農民連が呼びかけて集めたものです。スタッフは早く、米と洗剤の入った小

袋を手に仮設住宅を訪問、会の案内と来場を呼びかけました。一方残つた人々は餅つきの準備といも煮作りが始まり、午前11時前には第一陣の餅がつきあがり、さっそく、つきたての餅が来場者に振舞されました。

庄内風いも煮は、味噌味で豚肉を使用、具はネギ、ごぼう、ニンジン、コンニャク、白菜、さとうきび、椎茸、厚揚げ豆腐などを煮込んだものです。このいも煮を作るため庄内農民連・産直センターの2人は午前2時に庄内を出発、産直で交流のある横浜の保育士の4人が



(杉本記)

定期大会で日交タクシー支部の竹田代議員が参加を呼びかけていたいも煮会が10月11日と12日、中河原河川敷公園（仙台バイパス千代大橋南）で行われました。会場は市内中心部に近いため、昨年は大勢の人たちがそちらこちらで、グループごとにいも煮を楽しんでいました。今年は体育の

日の3連休のためか混雑はしていませんでしたが、それでも場所取りのため、なんと午前2時から場所取りを行ったそうです。2時からがんばっただけあって場所は木製のいすとテーブルが設置されていたところです。

そしてトン汁と一緒に食べた「炊き込みごはん」は去年まで相談会が行われました。会場の周辺には3

まで業者に頼んでいましたが、今回はじめて自前で作りました。午前3時から支部組合事務所の電源を利用して、2台の炊飯器を使い炊き上げました。

炊き上がった炊き込みご飯をうちわで扇ぎながら熱を冷まして発砲スチールの箱に入れて保温。苦労話を聞いて「男の手でここまでやるか」と正直

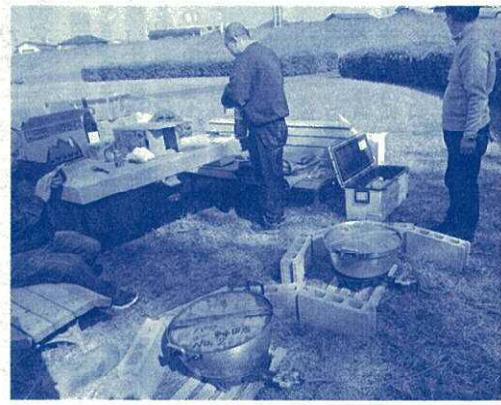
感心しました。

トントソリもお手のもので流れるような手際の良さです。組合員の幹にとらわれず広く参加を呼びかけたため、就労中のドライバーが次々に到着し昼食をとりながら談笑、再びハンドルを握り、乗客のいる街をめざしていくます。毎年このいも煮会に対して賛助金を拠出しているか



からかが、今年、初めて管理職の方が2名参加していました。(杉本記)

## 恒例のいも煮会



## 「被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める署名」

### 100万筆署名を成功させよう!

～職場、家庭、友人、近隣などあらゆるつながりをいかそう～

東日本大震災から3年8ヶ月経過しました。26万もの被災者が今なお、応急仮設住宅やみなし仮設住宅に暮らしています。一日でも早く人間らしい住まいや生活空間を得て、この地域で安心して暮らすことが、被災者の最大の願いです。

<請願項目>  
被災者生活再建支援法にもとづいて

- 支援金の最高額を、少なくとも500万円に引き上げること。
- 支給対象を拡大し、局地的な災害にも対応できるよう緩和すること。
- 支給にあたっては、国の負担割合を引き上げること。
- 自宅再建の難しい被災者にたいして、賃貸住宅への入居などに係る負担軽減を含めた総合的な住居確保のための支援策を実情に合わせて検討すること。